

建設経済委員会先進地視察報告書

日 時	平成29年10月24日（火）午前10時から午後3時まで
視 察 先	新潟県新潟市
視 察 項 目	下水道延命化（新潟市下水道中期ビジョン）について
視 察 者	委 員 長 古俣泰浩 副委員長 竹内慎治 委 員 川脇裕之、泉 清秀、林 秀人、島崎昭三
視 察 内 容	<p>新潟市では、市民がきれいで快適な暮らしができるよう、平成20年度に下水道が取り組むべき方向性を示した下水道中期ビジョンを策定した。今回は、この下水道中期ビジョンの概要や経緯、課題や今後の展開について視察した。</p> <p>同市が目指す都市像の実現に向けて下水道が担う役割を確実に果たしていくため、まず、策定から5年を経過した平成26年に、これまでの施策、取り組みを評価・分析し、社会環境の変化に応じた、新たな施策目標を設定するとともに、時代の要請に応えるような新しい事業展開なども盛り込んだ「新潟市下水道中期ビジョン [改訂版]」を策定した。</p> <p>同ビジョンは浸水対策や施設の老朽化対策など、緊急度が高く、市民生活に直結する事業を最優先とし、汚水整備については、限られた財源の中で最大限の効果発想を図るため、「選択と集中」による事業展開を行うものとなっている。</p> <p>また、同ビジョンにおいて、安心・安全な暮らしを守る下水道、美しい田園環境都市を守り育てる下水道、市民と協働の力が育む下水道の3つの基本方針、雨に強い都市づくり、下水道への接続の促進など9つの施策を策定し、中でも避難所へのマンホールトイレの設置やイベント、施設見学の開催、教育機関との連携による啓発活動の実施、SNSなどの多様な情報伝達手段を活用したより多くの人に伝わる広報の実施などが行われていた。</p>
所 感	<p>新潟市の下水管渠の延命では、プラスチック材による既存管渠の内面被覆を採用していた。この工法は掘削が不要のためコスト縮減や工期の短縮が期待できる。従来はコンクリートの二次覆工が用いられてきたが、硫化水素に起因するコンクリートの腐食に対して十分な防食機能を期待できないことが明らかになっている。そのため、コンクリートではなくプラスチック材を使用することは有効であると感じた。</p> <p>また、下水道資源の有効活用として、下水道管内の熱を利用した歩道の融雪システムや処理場内でのメタンガスを利用した自家発電、河川などの刈り草を既存の消化槽で混合消化することで消化ガスの不足分を補うというアプローチなど本市においても温室効果ガス排出規制等との相乗効果の望める取り組みは参考となった。</p> <p>管渠を始めとしたインフラの長寿命化、下水道資源の有効活用を視察することができ、本市においても今後検討すべき課題について学ぶことのできた有意義な視察となった。</p>

日 時	平成29年10月25日（水）午前10時から正午まで
視 察 先	新潟県村上市
視 察 項 目	村上市景観計画について
視 察 者	委員 長 古俣泰浩 副委員 長 竹内慎治 委 員 川脇裕之、泉 清秀、林 秀人、島崎昭三
視 察 内 容	<p>村上市は、かつては村上藩の城下町として栄え、現在でも市中に武家町、商人町の面影が残っている。そのため、観光振興に力を入れており、景観を活かした村上市景観計画を策定している。この計画の概要や取組状況、課題や今後の展開などについて視察した。</p> <p>同市では、景観を活用した取り組みとして、景観形成助成金の交付や景観アドバイザー会議による景観保護のアドバイスと有識者による景観審議会の開催などで、景観形成を支援していた。</p> <p>課題としては、景観を阻害する行為の増加、景観の悪化を招く社会的な要因、自然景観の荒廃の危惧が挙げられる。そのため、今後の展開としては、土地利用区分に応じた様々な法制度により、土地利用の規制は行われているが、景観保護の観点からみれば、少し緩い規制となっているため、景観保全上の括りをしていく必要がある。また、特に貴重な景観を保全していくためには、景観保護条例等の法整備、住民の意識改革、各保全に伴う補助制度などの策定が必要となる。今ある良好な景観を守っていくだけではなく、今後もよりよい景観を創っていくために、市民・事業者・行政の協働により村上市らしい景観を育てていくための仕組みづくりが重要となるとのことであった。</p>
所 感	<p>村上市では景観計画を定め、武家住宅、町家、社寺などが形成する伝統的な景観を活かしたまちづくりを推進していた。具体的な施策として取り組んでいる町屋再生では助成金を設けており、伝統的な景観を維持するためには有効な手段であると感じた。</p> <p>同市では村上町屋商人会による各種イベントの開催や黒塚プロジェクトチームが協力して、むらかみ町屋再生プロジェクトの会員を募集し、市民基金を設置し、外観再生に80万円、空家再生に100万円（補助率60パーセント）の改修補助金を支出しているほか、村上大工匠の会による改修工事のプランニング、安価での施工などが行われている。こうした市民自らによる景観保護の取り組みは斬新であり、行政に頼らない手法が参考になった。</p> <p>本市においての景観行政団体への移行と景観計画については、建築規制や形態・色彩等の基準づくり等への住民合意、また、指定される建物等への所有者の合意や維持管理費への助成等、様々な課題があるが、岡田の街並み等歴史的な魅力ある景観を次世代に引き継いでいくために、観光資源化として、今後、空き家も多くなることが想定される状況の中で、所有者の理解のもと計画を策定する必要性を感じた視察であった。</p>